



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

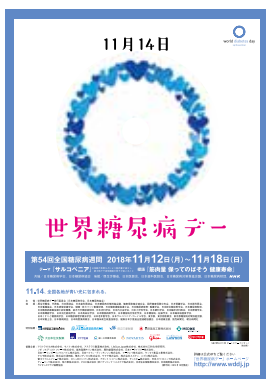
社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

世界糖尿病デー（ブルーサークル活動）イベント開催！



現在、世界の糖尿病人口は増え続け、2035年には約6億人に達すると試算されています。そして、日本が位置するアジア・太平洋地域の患者数の増加は深刻で、2014年は1億3800万人と全世界の約1/3の糖尿病患者がこの地域に集中しています。我が国でも、糖尿病と強く疑われる人、可能性を否定できない人の合計は約2050万人に上り、早急な対応が迫られています。ゆえに、このような状況を踏まえ、国際連合では、インスリン開発した医師の生誕日である11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地での、糖尿病予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進するよう呼びかけました。さらに、糖尿病キャンペーンのシンボルマーク「ブルーサークル」は国連や空を表す「青（ブルー）」と、団結を表す「輪（サークル）」を意味しており、この日に世界各地で一斉にブルーライトアップを実施しています。

以上のことから、今回当院でもこの活動に賛同し、ブルーライトアップ実施だけでなく、糖尿病予防、合併症進行予防のためのイベントを行いました。そして、地域の人々に糖尿病を知ってもらい、体験してもらうことで、これまでを振り返ってもらい、糖尿病発症・進行予防のための意識付けができればと考えました。内容としては、健康チェックコーナーとして、血糖測定・血圧測定・BMI測定など行い、管理栄養士による栄養相談、医師・糖尿病看護認定看護師による相談コーナー、理学療法士による運動コーナーなどを設けました。初めての開催で不安もありましたが、沢山の方が来場され、「来て良かったです。ありがとうございました。」という感謝の言葉も頂き、今後も継続して開催できるよう頑張ろうと思うことができました。この度イベント開催にあたり、ご支援いただいたスタッフの皆様には、心から感謝いたします。

糖尿病看護認定看護師 根笹 真由美

脳神経外科 部長挨拶



平成 30 年 10 月 1 日に脳神経外科部長として着任いたしました。以前は済生会熊本病院での勤務でした。

当院脳外科は、私を含めた 2 名の脳外科医と研修医 1-2 名での診療体制です。脳卒中、外傷、てんかん等の緊急疾患が主な診療ですが、今後は脳梗塞などの虚血性疾患に対する頸動脈血栓内膜切除術やバイパス術、また顔面けいれんや三叉神経痛に対する微小神経血管減圧術も行える体制を整えていきたいと思

います。赴任して間もないですが、周囲スタッフ皆さんのサポートを心強く感じる毎日です。今後とも宜しくお願いします。

さて、人吉住まいは初めてですが、連日の朝にもようやく慣れてきました。川の流れと温泉を、これほど身近に感じるとは想像していなかったので、嬉しい驚きです。自然豊かな地での季節のイベントやおいしい食べ物なども楽しみです。

脳神経外科 部長 牟田 大助

eレジフェア in 福岡



平成 30 年 10 月 28 日、福岡国際会議場にて開催された e レジフェアに指導医の田浦先生、当院臨床研修医の田中先生と石内先生、事務の花牟禮の 4 名で参加しました。e レジフェアとは医学生・研修医の方々が将来の研修病院選びのための情報収集の場、そして、病院にとっては研修病院として選んでいただくための情報提供の場です。当院ブースには熊本大学はじめ長崎大学など九州の各大学から 31 名の医学生の方にお越しいただきました。田中先生と石内先生が当院の研修内容や人吉の住み心地などについて説明されていました。また、先生の後輩の方々も多くお越しただいて、頼れる先輩の一面もみることができました。

総務企画課 花牟禮 由美

今年も久七トンネルの多重車両事故訓練に参加してきました！

今年も 10 月 23 日に人吉市と鹿児島県伊佐市を繋ぐ久七トンネルで、熊本県・鹿児島県の警察・消防と合同で多重車両事故訓練をおこなってきました。

トンネルを封鎖し、乗用車 3 台に模擬患者さん達を配置し、訓練開始です。今回は無人偵察車両が登場しました。

今年は伊佐市が当番だったので、トンネルの伊佐市側出入口付近に、事故現場が設定されました。

DMAT は、まず伊佐市の北薩病院 DMAT が駆けつけ、少し遅れて私たち人吉医療センター DMAT 2 隊が向かいました。片側 1 車線ずつしかないので、事故現場と救助

車両で両車線が占拠され、事故現場の向こう側にある統括本部へ到着するのに時間がかかりました。

本部へ到着の報告後、トリアージポストと救護所の応援に回りました。

久七トンネルは高地の山の中にあり、去年は凍えそうなど寒かったため、今年はカイロを持っていきましたが、そこまで寒くありませんでした。

今年の格言「災害時は混乱が当たり前。皆が臨機応変アメーバにならないといけない」

人吉医療センター DMAT 渡邊 龍太郎



無人偵察車両



研修協力施設(沖永良部島 朝戸医院)との交流

今月は当院が臨床研修(域医療研修)でお世話になっている鹿児島県の沖永良部(鹿大島郡和泊町)の朝戸医院の先生と医療スタッフの皆さんが職員旅行で人吉にお越しになりました。1 班目は 11 月 2 日、2 班目は 11 月 24 日と両日晴天に恵まれ、人吉の自然や焼酎などを堪能されたようです。当院にもご見学にきていただき、ヘリポート、病棟、救急室やリハビリテーション室などをご覧いただきました。また、研修でお世話になった木下先生との再会があったり、現場のスタッフともお話しいただいたりしてとてもよい交流をさせていただきました。



地域医療研修を終えて

ようやく人吉での研修に慣れてきたと思っていたら、あっという間に2ヵ月が過ぎてしまいました。この2ヵ月間は整形外科と産婦人科で研修をさせていただき、先生方をはじめ、研修医の同期や後輩、コメディカルや事務の方々、そしてオペ室のスタッフの方々には大変お世話になりました。

研修初日、初めて着る整形外科の防護服での手術中に早速気分が悪くなってしまい、幸先の悪いスタートに少し不安を感じました。産婦人科でも慣れない診察やモニターに戸惑い、勉強不足を痛感しました。しかし、基本

のきから丁寧に教えて下さり、多くの経験を積ませていただいたので、非常に実りある研修となりました。学んだことは今後活かしていきたいです。

振り返れば本当にあっという間の2ヵ月で、研修はもちろんです。人吉の美味しい食事と温泉もしっかりと満喫できたと思います。また、私は宮崎にも鹿児島にも住んだ経験があり、時折聞こえてくる宮崎弁と鹿児島弁に懐かしい感じを覚える居心地の良い空間でした。本当にありがとうございました。

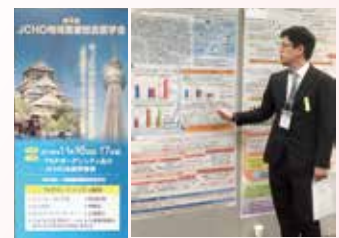


済生会熊本病院
臨床研修医 今井 美友

第4回地域医療機能推進学会

今回、東京・品川で第4回地域医療機能推進学会に参加しポスター発表をさせて頂きました。何を隠そう私は全くポスター作成の経験がなかったのですが、発表内容は院内看護研究で発表していた内容で、まあ大丈夫だろうと根拠のない余裕さえ持っていました。しかし始めると「論文の要点を90×160cmに収めた上でスマートに見やすく…？」とそこで初めてポスター作成の難しさに気付いたのです。さらに読み返すと研究自体も成立しているのか怪しい内容。余裕だと思った発表は、実は三重苦の状態だったのです。しかし、そんなボンコツな私に先輩の方々が叱咤激励、時には自分の時間を削ってまで指導して頂いたことで、ようやく発表まで漕ぎ着けることが出来ました。発表後、個別に質問を頂き、興味を持って頂ける内容だと認識。ここまでの内容に持っている

先輩の方々に「半端ない。」と思ったのでした。看護研究は可能な限り避けていたのですが、今回の経験で終わった後の安心感と少しの自信を得られたことは、今後、少しでも看護研究に前向きに向き合えることに繋がったと思います。今回、このような経験をさせて頂いた方々へ、感謝致します。ちなみに演題は「心臓カテーテル室における急変対応における問題点の把握」でした。ありがとうございました。



看護師 西山 竜道



第71回 INARS 九州プロバイダーコース開催

平成30年11月11日（日）、第71回 INARS 九州プロバイダーコースが当院で開催されました。

このコースは心停止に陥ることを回避するために、体系的アプローチを用いて患者の状態変化を「評価・認識」しチームで協力して状態の安定化のための行動を体験しながら学んでいきます。

チーム力では経験年数や専門性に応じて、持てる能力を発揮し心停止を回避するための思考過程を整理、再認識できます。とても臨床の現場で役立てられ、看護の質の向上にもつながる研修内容です。

今回も人吉球磨地域をはじめ、熊本市内、福岡県、鹿児島県など計23名参加して頂きました。また、今年は当院から新たに2名インストラクターも誕生し、タスクの温かい協力を得ながら5名の愉快的明るいインストラクターで受講しやすい環境整備を作っていきたいと考えております。

次年度は6月にワークショップとプロバイダーコースの開催が決定しており、新たな INARS インストラクターの誕生と受講生の参加を心待ちにしています。



9階病棟 看護師 福田 奈美

今後の認知症ケアを考える会

平成30年10月19日当院3階講堂において“今後の認知症ケアを考える会”が開催されました。今回、順天堂大学大学院精神・行動科学教授 新井 平伊先生より「認知症診断の現状～診断からケアまで～」をテーマに講演をしていただきました。院内スタッフ、医療関係者を始め、多くの方の参加があり会場を埋め尽くし、立ち見が出るほど大盛況でした。新井先生より認知症の病態、治療、ケアについて具体的に事例を交えてお話ししていただき、大変わかりやすく拝聴させていただきました。特に若年性認知症の患者さんとその家族のエピソードは感動的なお話でした。講演後は、ワークショップも開催され、当院認知症ケアチームの産婦人科 渡邊先生、総合診療科 平賀



先生、認知症看護認定看護師山口さんより臨床における問題や悩みなどを質問し、新井先生と座長の小林脳神経外科院長 小林 清市先生より回答してもらい、大変有意義な会となりました。また、同日の某テレビ番組に新井先生が出演され、家に帰っても認知症について学ぶ一日となりました。

認知症ケアチーム 田頭 隼人

特別臨床実習 – 消化器外科 –

私は消化器外科のクリニカルクラークシップの学外実習として1週間人吉医療センターにお世話になりました。

実習では手術見学、回診、病棟処置見学、カンファレンス参加等々豊富な内容が用意されており、中身の濃いものでした。先生方は優しく逐一疾患や治療について解説していただき、また些細な質問にも丁寧に答えてくださるので多くの知識や臨床的な考え方を身につけることができました。いくつか手技もさせていただいたのも良い経験になりました。病院スタッフ



の皆様もとても親切で気持ちの良い環境で医療が提供されており実習もやりやすかったです。

実習の空き時間には救急外来の見学もさせていただいたのですが、消化器外科

の実習生にもかわからず救急の先生方も快く受け入れていただきここでも多くのことを教えていただきました。宮崎や鹿児島からの患者も受け入れており、地域の中核病院の医療を直に見ることができました。

実習時間外では病院のソフトボールチームの試合にも参加させていただきました。ソフトボール以外にも職種をこえて多くのイベントが行われているようで病院の雰囲気の良さを感じました。その他にも美味しい料理をご馳走していただいたり、温泉に入らせていただいたり楽しい時間を過ごさせていただきました。

1週間という短い期間でしたが、消化器外科のことはもちろん、救急や地域医療についても学ぶことができ充実した実習になりました。先生方、病院スタッフの皆様には心から感謝いたします。

熊本大学医学部医学科 5年 山下 稜貴

私は1週間、消化器外科におけるクリニカルクラークシップの学外実習で、人吉医療センターの消化器外科にて実習させていただきました。今回数ある実習先の中で人吉医療センターを希望させていただいたのは、自分自身が地方の出身で、地域医療が幼いころから身近な存在であり、その恩恵を受けて育ったため、日頃から地域医療に関心をもっていたからです。

人吉医療センターでは、外科の先生方が救急の担当もされており、外科手術だけでなく、救急の現場を見学させていただく機会にも恵まれました。大学では救急疾患の対応を目のあたりにする事はあまりないため、貴重な学びを得ることができたと思います。様々な救急疾患への対応を見学させてもらい、また診断のプロセスやそれに至るまで考え方、治療方針までも、臨床の観点から学生の勉強につなげられるように教えていただいたため、とても充実した学習ができました。外科の先生方、また研修医の先生方は、忙しい中どんな質問にも快く答えてくださり、外科の手技についても基本から丁寧に指導してくださっ

たので、大変有難い環境に身を置かせていただいたと思います。また、先生方から診療についてだけでなく、外科医としての地域医療のやりがいや医師のライフワークについて様々なお話を伺わせていただけたことも、将来を考えていく上でとても良い刺激になりました。

どの先生方、医療スタッフの方々にも本当に親切に接していただき、本当に楽しく実りある時間を過ごすことができました。持ち帰るものが本当に多く、一つ一つ消化して大学での実習に生かしていきたいです。お世話になったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

熊本大学医学部医学科 5年 戸田 成美



目指せ！スーパーボランティア！

スーパーボランティアと言われるようなボランティア活動はなかなかできることはありませんが、人吉医療センターでは、できることを、できるだけやる、できるときボランティアを募集しています。

まずは、ご自分がどんなことができるか、ボランティアしたい内容や、活動可能日を登録していただき、ご希望にマッチングした時に活動していただくことで、ボランティアに取り組みやすい環境を提供できればと考えています。

ボランティアは人の為にするものではありません。現在、人吉医療センターでは、受付のお手伝いや、傾聴ボランティア、カラーペインティングなどのイベントでの講師ボランティアなど様々なボランティアの方が活躍されていますが、皆さん非常に生き生きと活動されています。

是非、一緒にボランティア活動して、人吉医療センターのボランティアの方が生き生きとされている秘密を探ってみませんか？

医療福祉連携室

お問い合わせ TEL 0966 (22) 2191



ボランティアさん紹介

傾聴ボランティアの白石友希さんです。白石さんは、以前は看護師さんとしてお仕事をされていました。その経験を活かし、患者さんの心身の状態を考慮しながら、人には話づらい心身の痛みや苦しみを話していただけるように患者さんの思いを傾聴しておられます。



合同物故者慰霊祭開催について

昭和37年から永年にわたり開催されています合同物故者慰霊祭は、現在の生活環境や価値観の多様性等を鑑み開催内容を変更し、3月の春光天地に満ち渡る季節、当院本館棟講堂において執り行うことと致しました。日程等につきましては、平成31年2月初めにお届いたします。多数のご臨席をお願い致します。

JCHO 人吉医療センター院長 木村 正美

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「小規模多機能ホーム 月明館」さんです。

「小規模多機能ホーム 月明館」 Vol.23

【施設特色】

今年4月に開設した「月明館」は、住み慣れた地域でその人らしい生活、望む暮らしを継続できるよう通いを中心に訪問、泊まり等を組み合わせ、必要な日常生活上の支援を行います。当施設は、去年よりRUN伴（認知症の人や家族や支援者、一般の人がリレーをしながら、1つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント）に参加し、認知症の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

【対象者】 要支援1～要介護5の認定を受けられた方

【サービスの内容】

通い（デイサービス） 定員14名
泊まり（ショートステイ） 定員6名
訪問（訪問介護）

【地域の皆様に一言】

当施設は「ゆっくり」「一緒に」「わがまま」を理念とし、穏やかに温かくあなたらしい時間を送っていただけることを目標に職員一同取り組んでいます。

地域の皆様にも気軽に來ていただき、一緒に時間を過ごしていただければ幸いです。



【お問い合わせ】

TEL 0966-47-0884 FAX 0966-47-0882
管理者 竹本 真由美

【訪問者の感想】

月明館は三角屋根のかわいい外観で、施設内には一人部屋や、二人部屋、一面畳の部屋などがありました。リビングも、自宅のような広さ、雰囲気、本当に我が家にいるかのような落ち着いた空間でした。

第21回

ビーチボールバレー大会

11月16日(金)スポーツパレスにおいて、毎年恒例の第21回ビーチボールバレー大会が開催されました。職員が楽しみにしているイベントの1つで、今回は、32チーム311名が参加しました。各チームとも、この日のために仕事終わりに一生懸命、汗を流し練習に励み、白熱した試合を繰り広げていました。



今回は以下の結果となりました。

優勝「荻Giants」

準優勝「最近血圧と血糖がちょっと高めです」

3位「SATUKI JAPAN A」

～優勝チーム「荻Giants」のメンバーから喜びの声～

私達のチームは、耳鼻科・小児科・眼科・歯科で編成された西外来チームです。練習は荻先生のご指導のもと、サーブの練習から、フォーメーションの練習を徹底的に行いました。練習の甲斐がありアドバイスを心得ながらプレーすることができ、チームワークはバッチリでした。全部で5試合しましたが、9階病棟スタッフ皆さんと、外来スタッフの方々の心のこもった応援があって、疲れより楽しい充実した時間を過ごしました。

荻Giants メンバー 松永 千恵

清流ハートクラブを開催しました！



10月25日に3階講堂で清流ハートクラブを開催しました。今回は、歯科口腔外科 野村昌弘医師に「歯と心臓の意外な関係」と題し、主に歯周病と心疾患の関連について話を聞いていただきました。

口は心臓から離れたところにあるので、「心臓の病気には関係がないだろう」と思われる方は多いのではないのでしょうか。実は驚くことに、大人の口の中には300～700種類の細菌があり、その中の歯周病菌が口の中から血管に入り込み、血液と一緒に体内を循環することで、血管内のアテローム性動脈硬化が促進されることが分かっているそうです。アテローム性動脈硬化が促進されると心筋梗塞や狭心症などの発症するリスクが上がることになります。

アメリカでは『Floss or Die』(デンタルフロスカ死か)という言葉が言われ、口腔清掃が不十分だと心筋梗塞などの致死的な疾患にかかりやすいということを極端に表した、有名なキャッチコピーがあるそうなので驚きです。

心疾患やその他の疾患の発症リスクを減らすためにも、生活習慣の改善に加え、口腔ケアも大切であることがわかります。

皆様も日々を健康に過ごすために、毎日の正しい歯磨きに加え、歯科医院での定期検診を行ってみてはいかがでしょうか。

地域連携室 小田 薫子

サイクリング in ひとよし球磨



10月28日「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリング in ひとよし球磨に自転車部で参加しました。A・チャレンジコース 120km、B・のんびりコース 70km、F・ファミリーコース 30kmで、リハビリテーション科の米倉さん、薬剤科の下川さん、眼科視能訓練士の平岡さんが今回初参加でした。医事課の木下さんはこの大会のために高級自転車を購入しましたがサドルが合わずお尻が痛いと言われ70kmにエントリーしていましたが、サドルを買い換え、小学校5年生の次男と120kmに当日変更し完走しました。

当日は絶好のサイクリング日和に恵まれ、紅葉色づき始めた山々を眺めながら、ランチステーションでは人吉球磨でとれた新米、食材を使った田舎らしいごちそうをバイキング形式でと、遠くは茨城県から約750名の参加者に人吉・球磨をアピールできたとても素晴らしい大会だった。と施設課の山口さんから聞きました。今回は所用で参加できませんでしたが、来年は僕も妻を誘って是非参加したいと思います。

臨床工学部 荻田 俊介

11月の勉強会報告

11月1日(木)第102回 消化器カンファレンス

「当院の胃瘻造設術の現状」

当院 消化器内科 西村 淳先生

「胃癌根治術後の予後因子、予後予測能の年齢による変化」

当院 消化器外科 黒田 大介先生

11月8日(木)ツムラ・イノベーションWEBセミナー2ndシーズン

「総括～各領域での推奨漢方処方クイズ～」

広島大学大学院医歯薬保健学研究科 漢方診療学 教授

飯塚 徳男先生